

2018年度教育研究活動報告用紙(様式9(2018))

氏名	手嶋 英津子	職名	講師	学位	修士(栄養科学)(中村学園大学2013年)
----	--------	----	----	----	-----------------------

研究分野	研究内容のキーワード
栄養教育	食行動 QOL 食育 ICT教育

研究課題
<ul style="list-style-type: none"> ICTを活用した新しい食育の授業デザインの構築とタブレット端末用教材アプリの開発 北九州市における骨粗鬆症の現状ならびに骨密度改善に対する栄養支援の効果

担当授業科目
栄養カウンセリング論(前期) 栄養教育論実習Ⅱ(後期)(分担) 学校栄養指導論Ⅰ(前期) 学校栄養指導論Ⅱ(後期) 教職実践演習(栄養教諭)(後期)(分担) 事前及び事後の指導(三期)(分担) 栄養教育実習(通年) 管理栄養士演習Ⅱ(通年) 卒業ゼミ(通年)

授業を行う上で工夫した事項(※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
<p>授業科目名【栄養カウンセリング論】</p> <p>本科目は、人の食行動を科学的に考察するとともに、行動科学と栄養教育の関連性や、カウンセリングマインドを持つことの重要性を理解することが目標である。授業は、ワークシートを活用し、テキストとパワーポイントを使用して解説した。パワーポイント資料や、補足資料はプリントして配布した。また、栄養カウンセリングに必要なスキルを身に付けることができるように、多くの事例を提示し、グループワークやロールプレイを実施した。さらに、ロールプレイによる発表を行い、フィードバックすることで多くの気づき(身だしなみ、姿勢、態度、話し方など)を共有できた。今年度の課題は、学生のコミュニケーションスキルを高めることであったため、学生同士で意見を共有する時間を毎時間設けた。また授業の改善・充実のために、授業の最後に振り返りを行い、学生の理解度や課題を把握するように努めた。</p>
<p>授業科目名【栄養教育論実習Ⅱ】</p> <p>本実習は、栄養カウンセリング論や栄養教育論で学んだ知識と関連付けて、栄養カウンセリングに必要な技術を修得し、疾病別に対応した栄養教育を実践的に修得することを目標とする。個人栄養支援では、主にロールプレイングを実施し、聞き取りによる食事調査や栄養カウンセリングの実際を体験した。また、栄養教育に使用する媒体として、リーフレットやパワーポイントの作成を行った。提出された媒体は、全員に個別指導を行いながら返却し、訂正を繰り返すことで資料作成能力を高めることができたと考えられる。授業での課題や発表時には、必ずフィードバックをする機会を設け、各自の課題を見つけ改善へと繋がるように工夫した。</p>

<p>授業科目名【学校栄養指導論Ⅰ】</p> <p>本科目は、栄養教諭の使命と役割をよく理解して、児童生徒の食に関する実態を把握し、食に関する課題を解決するための、意識・態度・姿勢を持つことを目標とする。栄養教諭の職務内容や、職務の実態を学ぶ数少ない専門科目である。昨年度は受動的な学習が多かったため、今年度は、グループワークや発表を多く取り入れ、教員として必要である思考力や表現力が身に付くように工夫した。また、ICT機器を活用できる栄養教諭養成のために、電子黒板やタブレット端末等のICT機器を積極的に取り入れた。</p>
<p>授業科目名【学校栄養指導論Ⅱ】</p> <p>本科目は、学校栄養指導論Ⅰの基礎学習をふまえ、小・中学校の教科における食に関する指導内容や授業計画案を作成し、具体的に指導する実践力を身に付けることを目標とする。授業は、非常勤講師の先生と担当し、主にワークシートを中心とし、重要なポイントが明確にわかるようになっている。さらに、小テストを毎回実施することで、重要ポイントが確認でき、知識の定着へと繋がった。授業計画案～模擬授業は、学生の理解度に合わせて個別指導を行った。また、教員としての表現力を高めるために、毎時間、異なる対象者を設定し、食や健康に関連する内容で1分間スピーチを実施した。回を重ねるごとに話し方や態度が変化することで、学生の自信へと繋がり、大変有益であったと実感した。</p>
<p>授業科目名【事前及び事後の指導】</p> <p>本科目は、栄養教育実習の事前・事後指導を実践する科目である。非常勤講師の先生と担当し、栄養教育実習を受けるに当たっての心がまえや、予備知識の確認、食の指導に関わる授業研究についての解説を行った。食に関する指導については、模擬授業を繰り返し実施、評価することで、教員としての姿勢や取組について意識を高めた。また、授業外においても個別指導を実施し、指導案の作成や課題の添削等、できる限りの指導を行った。実習中には、全ての実習校を訪問し、校長先生や栄養教諭の先生との意見交換を行い、次年度以降の実習内容の改善に繋げた。実習後は、実習報告書および発表資料を作成し、実習報告会で発表をした。また、その報告会には3年生も参加し、次年度の栄養教育実習へのモチベーションを高めることに繋げた。</p>
<p>授業科目名【教職実践演習(栄養教諭)】</p> <p>本科目は、教職課程担当者と協力して、これまでの教職課程での学習と栄養教育実習を振り返りながら、栄養教諭としての使命感や、実践的技能と資質・能力の向上を目標とする。将来、栄養教諭となる上で、自己にとって何が課題であるかを自覚し、不足している知識や技能を補うことが必要である。そのために、4年間の学びの振り返りを行い、課題を解決するための授業を実施した。特に、指導力不足に焦点を当て、模擬授業を実施し課題解決に取り組んだ。また、外部講師として現職の栄養教諭(中学校)を招き、講義後に交流の場を設けることや、小学校への研究授業の参加等、教育現場との積極的な関わりを通して、栄養教諭の職務や意義と役割を再認識し、学びの集大成となるように工夫した。</p>

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
日本栄養士会	正会員	2003年4月～2013年3月 2015年4月～現在に至る
日本栄養改善学会	正会員	2003年4月～2013年3月 2015年4月～現在に至る
日本病態栄養学会	正会員	2008年4月～現在に至る
日本食育学会	正会員	2015年4月～現在に至る
日本健康教育学会	正会員	2016年4月～現在に至る
日本骨粗鬆症学会	正会員	2017年7月～現在に至る

2018年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要

2018年度 研究業績等に関する事項

著書、学术论文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(著書) なし				
(学术论文) なし				
(翻訳) なし				
(学会発表) 1. The 7th Asian Congress of Dietetics	共著	2018年7月	The 7th Asian Congress of Dietetics (於 Hong Kong)	<p>① In order to promote informatization of education for the 2020's, ICT equipment has been spreading at educational sites. Along with that, there is a demand for the development and provision of teaching materials to support children's new learning, but almost no applications are intended for use in educational classes. Therefore, at our university we conducted development of applications and food education events using applications for students focusing on training administrative nutritionists who can utilize ICT, so report on their efforts.</p>
2. 授業用アプリ「食育 の授業ーおやつ編ー」を 用いた食育の実践ー小 学生を対象とした食育 イベントの取り組みー	共著	2018年9月	第65回日本栄養改善 学会学術総会 (於 朱鷺メッセ)	<p>①本研究では、2020年からの教育の情報化に向けて食育の授業のためのアプリを開発した。対象は小学生とし、「望ましいおやつを選択すること」を目的としている</p>

2018年度 研究業績等に関する事項

著書、学术论文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
3. 管理栄養士養成課程における実践的食育活動が学生の食生活ならびに学習に対する自己評価に及ぼす影響	共著	2018年9月	第65回日本栄養改善学会学術総会 (於 朱鷺メッセ)	<p>。今回、本アプリを使った食育イベント実施したので報告をした。今後は教材の作成や小学校での授業実践が課題である。</p> <p>②手嶋英津子、領木信雄</p> <p>③第65回日本栄養改善学会学術総会講演要旨集</p> <p>①本学では地域住民の健康増進に貢献することを目的とした公開講座を開催し、管理栄養士育成の一環として、学生の積極的参加を促している。そこで、実践的食育活動が学生の食生活および学習に対する自己評価に及ぼす影響について、検討した。実践的食育活動は学生自身の食生活や学習に対する意識向上としての教育効果が高いことから、今後は学生が基本的資質を修得できる活動期間や時期等についての検討が必要である。</p> <p>②石井愛子、田中貴絵、手嶋英津子、山田志麻、境田靖子、田川辰也、近江雅代</p> <p>③第65回日本栄養改善学会学術総会講演要旨集(P261)</p>
4. 大量調理業務における総エネルギー消費量、歩数および運動量の実際～実施回数による比較検討～	共著	2018年9月	第65回日本栄養改善学会学術総会 (於 朱鷺メッセ)	<p>①大量調理業務における身体活動量について、実施回数による比較検討を行った。総エネルギー消費量、歩数および運動量は実施回数による変化はみられず、170食/8名での大量調理業務の身体活動量の実際を把握することができた。一方、時間帯ごとの歩数では第1回に比し、第4回は10:00～12:00で増加、10:00～12:00で減少し、経時的変化に違いがみられた。これは大量調理の経験により、食材の下処理および調理作業を迅速に行うようになったことで、盛り付けおよび提供作業がより効率的であったためと推察</p>

2018年度 研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
5. 大量調理業務における調理歩数の実際ならびに経時的変化	共著	2018年11月	第14回日本給食経営管理学会学術総会(於 女子栄養大学)	<p>される。</p> <p>②石井愛子、<u>手嶋英津子</u>、境田靖子、近江雅代</p> <p>③第65回日本栄養改善学会学術総会講演要旨集(P315)</p> <p>①本研究では、調理中の歩数の経時的変化から、大量調理に対する適応性を検討した。調理開始直後8:00~10:00の歩数は、両群ともにばらつきがみられた。10:00~12:00では低値群のばらつきは小さくなり、歩数は大きく減少したが、高値群のばらつきおよび歩数の大きな変化はなかった。12:00~14:00では低値群のばらつきは小さいままであったが、高値群ではばらつきが大きく、歩数もほぼ変わらなかった。②近江雅代、石井愛子、<u>手嶋英津子</u>、境田靖子</p> <p>③第14回日本給食経営管理学会学術総会講演要旨集</p>
6. 大量調理における疲労実態ならびに身体活動に及ぼす影響～第2報：身体活動量の実際～	共著	2017年11月	第14回日本給食経営管理学会学術総会(於 女子栄養大学)	<p>①大量調理における総消費量、歩数および運動量の実際と経時的変化を検討した。対象は大量調理に携わる学生8名、調理当日を含む1週間、生活習慣記録機を装着し、身体活動量を測定した。調理開始時刻は8:00、終了時刻は14:00、歩数の記録は調理開始から2時間ごとに行った。調理後の総消費量、歩数、運動量のいずれも、有意に高値を呈した。調理後の歩数は前日に比し圧倒的に多く、特に10:00~12:00までの歩数が著しく上昇した。大量調理作業は日常生活に比較して、1日の総消費量、歩数および運動量が高くなり、特に『盛り付け～提供作業』において、歩数のピークが認められた。</p>

2018年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
				②石井愛子、手嶋英津子、境田靖子、近江雅代 ③第14回日本給食経営管理学会学術総会講演要旨集 教育研究業績 総数 (2018.3.31現在) 著書 1(内訳:単0、共1) テキスト 1(内訳:単0、共1) 総説 1(内訳:単0、共1) 学術論文 5(内訳:単1、共4) 学会発表 39(内訳:単0、共33)

外部資金(科学研究費補助金等)導入状況(本学共同研究費を含む)			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者()内は学外者	交付決定額 (単位:円)
ICTを活用した新しい授業デザインの構築とタブレット端末用教材アプリの開発	西南女学院大学共同研究費	○手嶋英津子 領木信雄	1,245,000
『食と健康』に関する地域密着型食育活動の展開	西南女学院大学共同研究費	○田川辰也 栄養学科教員	1,067,000
	一般社団法人全国栄養士養成施設協会助成金		70,000

外部資金(科学研究費補助金等)導入状況(本学共同研究費を含む)			
(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位:円)	備考

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等
・西南女学院大学・九州歯科大学連携公開講座	「骨密度測定」担当	2015年4月～現在に至る
・北九州市保健福祉局主催 食育キャンペーン2017	「骨密度測定」担当	2018年8月22日
・北九州市企救丘市民センター (食育アプリを使った食育イベント)	責任者	2018年12月15日
		2019年2月9日

・発酵ジャパン	ブース担当	2019年3月10日
---------	-------	------------

学 内 に お け る 活 動 等 (役職、委員、学生支援など)

- ・教職課程委員会 (2015年4月～現在に至る)
- ・学生委員会
- ・教員採用試験対策個別指導(一次試験、二次試験)
- ・教員免許更新講習会テキスト担当、講師